



日本赤十字社

伊勢赤十字病院

2012年、新病院への移転を機に伊勢赤十字病院として生まれ変わった

機能分担と地域医療連携を推進し、入院治療・救急医療のさらなる充実を



院長 村林 紘二

病院完結型医療から地域完結型医療へ

2012年の新病院への移転を機に、一世紀超の歴史を誇る山田赤十字病院は伊勢赤十字病院に名称を変更した。新病院の特徴を挙げる前に、同院が成し遂げた大きな改革にふれておかななくてはならないだろう。南北に伸びる三重県の中ほどに位置する同院だが、医療圏としては南部に属し、南勢志摩保健医療圏だけでなく、人口が少なく医療環境が脆弱な東紀州保健医療

圏までをフォローする「県南最後の砦」となっている。以前は軽度、重度を問わず多くの患者をうけ入れる典型的な病院完結型医療を展開していた。医師は外来診療に追われる中での手術を余儀なくされ、看護師は多大な業務に忙殺された。

村林紘二院長は職員の働く環境の改善と、急性期病院としての役割を充実させるため改革に乗り出す。まず始めたのは逆紹介だった。同院を訪れる患者を地域の病院に送った。また、三重県が実施するパティホスピタルシステムに参加し、医師不足地域に医師を派遣。さらに同院独自の試みとして管理栄養士による出張栄養指導を実施。出張件数は2012年4月～2013

年2月で66回を数え、栄養指導人数は166名となっている。ここには、開業医のサポート、雇用の創出、看護師の負担軽減、術後患者のフォローといったさまざまな狙いがある。こうした取り組みの結果、地域の病院から同院への紹介が少しずつ増え、今では年間の逆紹介1万7732件に対し、紹介が2万2358件

(2011年4月～2012年3月)という水準にまで達した。病院完結型医療から地域完結型医療への転換は果たされたのである。なお、同院は厚生労働省より大学病院本院(Ⅰ群)に準ずる機能を果たすⅡ群病院(全国に90病院)に指定されている。

オープンカンファレンスでオン・オフを実感できる

新病院は伊勢の町並みに

調和した5階建の低層建物。救急部門の充実を図り、救急外来に広い面積を確保し、救急病棟、集中治療室、手術室、そして屋上のヘリポートはエレベーターで直結している。ヘリポートは防災ヘリにも対応できるという。そして、一看護単位の病床数を35床と少なめにし、ワンフロアー8看護単位を4つのスタッフステーションに分割して配置するという独自の構造を持つ。各ステーションからは、中央に位置する職員専用のスペースに容易に行き来できる。特筆すべきは3階から5階まで吹き抜けのオープンカンファレンスである。患者の目を気にすることなく、医療を支える多職種のスタッフがカンファレンスや休憩



病床数655床(一般651床・感染症4床)の伊勢赤十字病院

「同院における平均在院日数は現在12日です。それだけ入院も激しいので、職員にはゆとりをもって仕事に臨み、十分に力を発揮してもらわなければならない。オン・オフを実感できるように患者動線と職員動線を可能な限り区別しました。働く人が満足してこそ、患者さんに優しくなれると、私たちは考えるからです」

3階から5階まで吹き抜けのオープンカンファレンス



診療科目：血液・感染症内科、肝臓内科、糖尿病・代謝内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、神経内科、精神科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経血管内科、リハビリテーション科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、産婦人科、泌尿器科、皮膚科、眼科、頭頸部・耳鼻咽喉科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科(原祐子)、腫瘍内科、歯科口腔外科、緩和ケア内科、形成外科、総合内科

受付時間：平日 8:00～12:00

※診療科・曜日によって受付時間が異なる場合があります。詳しくは各診療科までお問い合わせ下さい。

外来休診日：土・日・祝 ※救急外来は除きます。

〒516-8512 三重県伊勢市船江一丁目471番2
TEL.0596-28-2171(代) <http://www.ise.jrc.or.jp/>